2021年度　シラバス（授業要覧）

表現学科　情報司書フィールド

1年生

科　目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	植木　誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使った表現の力を養う。		
到達目標	共通語を理解し、正しく使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現出来るように、的確な言語表現が出来るようになる。		
学習成果の評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 外郎売を最終的な評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	授業概要の説明・自己紹介	教科書を読んでおく
2.	「話す」「聞く」「書く」「読む」の理解	教科書を読んでおく
3.	呼吸と発声・発音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
4.	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
5.	「カ行」「ガ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
6.	「サ行」「ザ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
7.	「タ行」「ダ行」「ナ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
8.	「ハ行」「バ行」「パ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
9.	「マ行」「ヤ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
10.	「ラ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
11.	「ワ行」「撥音」「促音」「拗音」	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
12.	文章を読む	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
13.	共通語のアクセント①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
14.	共通語のアクセント②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
15.	イントネーション	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。

教科書	「日本語の発声レッスン」
参考書	「ＮＨＫアクセント辞典」
学習成果の評価方法	受講態度３０%、授業内発表４０%、外郎売３０%
特記すべき事項	声優として多数の作品に出演
質問・相談等の受付	

科　目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	植木　誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使った表現の力を養う。		
到達目標	共通語を理解し、正しく使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現出来るように、的確な言語表現が出来るようになる。		
学習成果の評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 外郎売を最終的な評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
16.	プロミネンス	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
17.	アーティキュレーション①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
18.	アーティキュレーション②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
19.	アーティキュレーション③	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
20.	外郎売①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
21.	外郎売②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
22.	外郎売③	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。
23.	まとめ	
24.		
25.		
26.		
27.		
28.		
29.		
30.		

教科書	「日本語の発声レッスン」
参考書	「ＮＨＫアクセント辞典」
学習成果の評価方法	受講態度３０%、授業内発表４０%、外郎売３０%
特記すべき事　項	声優として多数の作品に出演
質問・相談等の受付	

科　目	日本語概説	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	桐生直代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業では、近代以降の文学作品を通して、文学研究の方法を学んでいきます。前半は教員の講義、後半は学生の演習発表を行います。		
到達目標	【知識・理解の観点】日本語の構造・性質に関する知識を身に付け、説明することができる。 【技能の観点】学んだことを身近な問題として捉え、説明することができる。 【態度の観点】日本語への興味関心を深め、ディスカッションや発表に意欲的に参加し、他者の意見を尊重し自分の意見を述べることができる。		
学習成果の評価基準	学期末試験（60%）課題（30%）受講態度（10%）　課題には毎回の復習問題が含まれます。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション	【予習】シラバスを読んでくる。
2.	日本語の音声・音韻（1）　母音	【復習】復習問題を解く。
3.	日本語の音声・音韻（2）　子音	【復習】復習問題を解く。
4.	日本語の音声・音韻（3）　アクセント	【復習】復習問題を解く。
5.	日本語の文字表記（1）　日本語の表記の特色	【復習】復習問題を解く。
6.	日本語の文字表記（2）　漢字	【復習】復習問題を解く。
7.	日本語の文字表記（3）　平仮名・片仮名	【復習】復習問題を解く。
8.	日本語の語彙（1）　語彙	【復習】復習問題を解く。
9.	日本語の語彙（2）　語種	【復習】復習問題を解く。
10.	日本語の語彙（3）　位相	【復習】復習問題を解く。
11.	現代生活と日本語（1）　敬語	【復習】復習問題を解く。
12.	日本語の文法（2）　活用	【復習】復習問題を解く。
13.	現代生活と日本語（1）　敬語	【復習】復習問題を解く。
14.	現代生活と日本語（2）　方言	【予習】出身地で使われている方言を探してくる。
15.	まとめ	今までの内容を整理し、疑問を解決し、試験に備える。

教科書	なし。プリントを配付します。
参考書	なし。プリントを配付します。
学習成果の評価方法	受講態度（10%）　定期試験（60%）　その他【　復習・予習課題　】（30%）
特記すべき事項	クラスルーム上にて課題の提示や授業の指示などを行う場合があります。
質問・相談等の受付	「日本語概説」クラスルーム、Gmailにて受け付けます。

1-3

科　目	表現研究Ⅰ	開講時期	1年後期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態	演習
		単位数	1単位
授業概要	インターネットの主要サービスであるWWWの仕組みを学ぶ。 Webページを記述する言語であるＨＴＭＬと、スタイルシートを指定するＣＳＳを実際にコーディングしながら修得する。		
到達目標	HTMLとCSSを記述して、基本的なWebページが作成できるようになる。		
学習成果の評価基準	単元ごとに授業内課題を実施 最終課題で学修したことを盛り込んで自分なりのWebページを作成		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	World Wide Webの基礎知識	教科書p2～23
2.	ＨＴＭＬの基本構造	教科書p24～36
3.	ＣＳＳの基本構造	教科書p37～49
4.	フォント	教科書p50～54
5.	色の指定	教科書p55～60
6.	領域の指定	教科書p61～69
7.	画像	教科書p70～85
8.	リンク（1）	教科書p86～94
9.	リンク（2）・リスト	教科書p95～106
10.	テーブル（1）	教科書p107～116
11.	テーブル（2）	教科書p117～128
12.	フォーム	教科書p129～134
13.	JavaScript基礎（1）	教科書p135～143
14.	JavaScript基礎（2）	教科書p144～150
15.	文字のレイアウト	教科書p151～157

教科書	『ＨＴＭＬ＋ＣＳＳ』クイックマスター　ウイネット
参考書	
学習成果の評価方法	授業内課題：50%　　最終課題：50%
特記すべき事　項	
質問・相談等の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

1-4

科　目	表現研究Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	白根恵子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	本の内容をかいつまんで紹介し、読む気を起させるブックトークについて学び、口頭でわかりやすく的確に説明できる力を身につける。		
到達目標	ブックトークを通して、人の前で自分の考えや思いを言葉で表現することができるようになる。		
学習成果の評価基準	・到達目標の達成度を測るため、ブックトークを実施に作成発表完成度を評価する。授業中に提出を求める課題内容を評価する。 ・授業内での積極的な発言、質問を受講態度の評価基準とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	子どもの読書の意義について考える	心に残っている本を思い出しておく
2.	ブックトークの意義	ブックトークで紹介する本を考えておく
3.	ブックトークのやり方の説明と実演	紹介のやり方を考えておく
4.	ブックトークを楽しくするための工夫①読み聞かせ、指あそび、わらべ唄	読み聞かせの練習をしておく
5.	ブックトークを楽しくするための工夫②ストーリーテリング	短いお話を覚える
6.	口で語るための文（テキスト）の作り方を知る	本の紹介をする準備をしておく
7.	1冊の本を紹介しあう（各自）	注意された点を修正しておく
8.	ブックトークに挑戦①　グループで作る。	紹介のポイントを考えておく
9.	ブックトークに挑戦②　グループで作る	構成、つなぎ方を考えておく
10.	ブックトークに挑戦③　グループごとに発表	発表準備をしておく
11.	ブックトークに挑戦④　1人でブックトークを作る（発表）	本を選定しプランを立てる。修正
12.	ブックトークに挑戦⑤　修正したプランの発表	発表に向けての修正
13.	ブックトークに挑戦⑥　修正したプランの発表	発表に向けての修正
14.	ブックトーク最終発表と評価１　（各自）	ブックトークを完成させ、発表練習
15.	ブックトーク最終発表と評価２　（各自）	ブックトークを完成させ、発表練習

教科書	プリント配布
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（４０%）　授業内課題（２０%）　授業内発表（４０%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-5

科　目	文学概論	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	中島由美子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	百人一首という研ぎ澄まされた日本語の世界を入口にして、その背景の平安古典文学と、その登場人物の生きざまを現代に生きる自分たちに重ねながら鑑賞、理解する。		
到達目標	［知識理解の観点］①古文を原文で読むことができる　②和歌の知識を踏まえて百人一首を理解、鑑賞し暗誦する。③平安古典文学に登場する人々の生きざまと心情を自らに重ねながら理解する。 ［態度の観点］④理解したことや考えたことを言葉や文章で表現し、討議できる。		
学習成果の評価基準	Ⅰ到達目標①、②の達成度を測るために、授業で取り上げた和歌や古文に関する定期試験において6割以上の解答ができる。 Ⅱ到達目標②、③の到達度を測るために、レポートや鑑賞分を課し、評価する。 Ⅲ授業での積極的な発言やグループ討議への参加態度を「受講態度」の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	開講にあたって①授業概要と目標、評価　②百人一首の概要　③和歌の知識の確認	シラバスの確認
2.	百人一首の読解・鑑賞（1）歌番9・14・16・17・19	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
3.	「伊勢物語」在原業平の恋の行方［1］	教材プリント予習
4.	百人一首の読解・鑑賞（2）歌番21・23・35・38・40	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
5.	「伊勢物語」在原業平の恋の行方［2］	教材プリント予習
6.	百人一首の読解・鑑賞（3）歌番50・53・54・56・57	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
7.	「蜻蛉日記」右大将道綱母　妻の苦悩	教材プリント予習
8.	百人一首の読解・鑑賞（4）歌番41・42・43・46・49	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
9.	「和泉式部日記」和泉式部の情熱［1］	教材プリント予習
10.	「和泉式部日記」和泉式部の情熱［2］	教材プリント予習
11.	百人一首の読解・鑑賞（5）歌番59・60・62・63・67	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
12.	「枕草子」清少納言の見た宮廷世界	教材プリント予習
13.	百人一首の読解・鑑賞（6）歌番77・80・84・87・89	当該歌番についてテキスト学習 当該歌番の和歌暗誦
14.	「源氏物語」紫式部の描いた男と女の物語［1］	教材プリント予習
15.	「源氏物語」紫式部の描いた男と女の物語［2］	教材プリント予習

教科書	「ときめき百人一首」小池昌代著　河出文庫
参考書	古語辞典・プリント教材
学習成果の評価方法	受講態度（10%）　小テスト・レポート等（20%）　定期試験（70%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	授業内容に関する質問は授業時間中に、それ以外の相談等は休み時間等で受け付ける。

科　目	作家作品研究Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	桐生直代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業では、近代以降の文学作品を通して、文学研究の方法を学んでいきます。前半は教員の講義、後半は学生の演習発表を行います。		
到達目標	【知識・理解の観点】作家研究、作品研究、テクスト研究について理解し、文学作品を主体的に読むことができる。 【技能の観点】授業で学んだ方法を活用して文学作品を読むことができる。 【態度の観点】ディスカッションや発表に意欲的に参加し、他者の意見を尊重し自分の意見を述べることができる。		
学習成果の評価基準	レポート（40%）発表（30%）受講態度（30%）発表の評価には、事前準備・事後回答も含みます。受講態度には、発表者への質問や質疑応答の態度を含みます。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション	シラバスを読んでくる。
2.	作家論の進め方	配付資料を読んでくる。。
3.	作品論の進め方	配付資料を読んでくる。
4.	テクスト論の進め方	配付資料を読んでくる。
5.	文学史の枠組み	配付資料を読んでくる。
6.	文化批評の視点	配付資料を読んでくる。
7.	まとめ	内容を整理し、疑問点を解決する
8.	資料の調査と収集の方法	担当する作家と作品を選んでくる。
9.	口頭発表の手順と準備	資料を準備してくる。
10.	学生の発表	レジュメの作成と発表の準備。発表後は回答書を作成する。
11.	学生の発表	レジュメの作成と発表の準備。発表後は回答書を作成する。
12.	学生の発表	レジュメの作成と発表の準備。発表後は回答書を作成する。
13.	学生の発表	レジュメの作成と発表の準備。発表後は回答書を作成する。
14.	学生の発表	レジュメの作成と発表の準備。発表後は回答書を作成する。
15.	まとめ	内容を整理し、疑問点を解決する。

教科書	なし。プリントを配付します。
参考書	なし。プリントを配付します。
学習成果の評価方法	レポート（40%）発表（30%）受講態度（30%）
特記すべき事項	クラスルーム上にて課題の提示や授業の指示などを行う場合があります。
質問・相談等の受付	「作家作品研究Ⅰ」クラスルーム、Gmailにて受け付けます。

科　目	読書と豊かな人間性	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	豊かな人間性を育てる読書生活のために、発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。また、「言葉」による表現で読書に親しむための実技を学ぶ。		
到達目標	発達段階に応じた読書の違いに振れ多様化する読書資料の活用ができるようになる。また、絵本の選定や読み聞かせの手法を学び人前で読み聞かせができるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標にしている、発達段階に応じた読書資料の活用の達成度及び絵本の読み聞かせの実技、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	読書の意義と目的について	なぜ読書をしなければならないのか考える
2.	読書能力の発達について	さまざまなリテラシーについて考える
3.	読書興味の発達について	発達段階によっての読書を考える。
4.	読書興味の発達段階について	就学時までの読書について考える
5.	読書興味の発達段階について	小学低学年についての読書を考える
6.	読書興味の発達段階について	小学校高学年についての読書を考える
7.	読書興味の発達段階について	中高校生以上の読書を考える
8.	読書の導入的な指導	環境整備について考える
9.	読書体験表現・交流について	自分の読書体験について考える
10.	公共図書館と学校図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携について考える
11.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（1）	いろいろなジャンルの絵本を読む
12.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（2）	いろいろなジャンルの絵本を読む
13.	絵本の読み聞かせを実演し、読み手と聞き手の関係性を学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う
14.	絵本の読み聞かせを実演し、絵本のめくり方、間の取り方、終わり方などを学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う
15.	授業総括	講義を振り返り人間性を育てる読書について考える

教科書	『新版読書と豊かな人間性』朝比奈大作ほか／放送大学教育振興会
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（10%）定期試験　（60%）授業内発表（30%） 到達度確認テストを実施後、フィールドバックします。
特記すべき事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています
質問・相談等の受付	

科　目	コミュニケーション論	開講時期	1年前期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	山田俊之	授業形態	講義
		単位数	2単位

授業概要	コミュニケーション能力とは「対人的なやり取りにおいて、お互いの意思疎通をスムーズにするための能力のこと」です。家庭、学校、職場、社会といったあらゆるシーンで、他人との人間関係を円滑に構築するために非常に重要な能力である. 特に図書館人はレファレンスをする時などコミュニケーションで失敗の無いようにしたい。 授業では、上記の「コミュニケーション能力」を理解しながら、地域のコミュニティーや学校に実際にプレゼンテーションを実施しながら、自分たちのテーマやお勧めの本などを紹介して実践的なワークショップや演技発表を行う。
到達目標	対人的なやり取りにおいて、お互いの意思疎通をスムーズにするための能力身に付け活用できる。また、自己やチームの目的達成のために周囲と協調する能力を見つけることができる。
学習成果の評価基準	コミュニケーション能力の理解、お互いの意思疎通をスムーズにするための能力を実践的なワークショップやディスカッション、プレゼンテーションなどを通して評価を行う。学校、職場、社会といったあらゆるシーンで、他人との人間関係を円滑に構築するため、実際にプレゼンテーションを実施しながら、自分たちのお勧めの本などを紹介、実践的なワークショップや演技発表を評価する。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	「コミュニケーション能力」とは？ ・他者を巻き込む力、理解させる・説得する力、論理的に伝える力を理解する。	配布資料を確認する。次回のテーマを準備する。
2.	「言語コミュニケーション」の「バーバル表現」、「非言語コミュニケーション」の「ノンバーバル表現」違いや特性について理解する。	配布資料を確認する。次回のテーマを準備する。
3.	類語「コミュニケーションスキル」の理解。「コミュニケーションスキル」は、特にビジネスの場での「話す」「聴く」。演習。発表。	配布資料を確認する。次回のテーマを準備する。
4.	①伝える②受け取る③非言語について。演習。発表。	配布資料を確認する。次回のテーマを準備する。
5.	「バーバルコミュニケーション」を体験 ①1対1のコミュニケーション　3例 ②3～4名のディスカッションversion1～4	配布資料を確認する。グループ練習を行う。
6.	③5名以上のディスカッションversion1～4 ④「1対全員」の発表の方法　＊自分の思いを2分以内で伝える	配布資料を確認する。グループ練習を行う。
7.	①リズム遊びワークショップ　　3例 ②アンサンブル・ワークショップ　　「手拍子の花束」version1～4	配布資料を確認する。グループ練習を行う。
8.	③カノン形式ワークショップ　　「花火」version1～4 ⑤ボイスアンサンブル実践ワークショップ	配布資料を確認する。グループ練習を行う。
9.	何のためにコミュニケーションを取るのか。コミュニケーションの目的について。	配布資料を確認する。プレゼンのテーマを準備する。
10.	「人間関係を築く」「情報を交換・共有する」、「相手に働きかける」をテーマに地域のコミュニティでワークショップⅠ	配布資料を確認する。グループのテーマを準備する。
11.	「人間関係を築く」「情報を交換・共有する」、「相手に働きかける」をテーマに地域のコミュニティでワークショップⅡ	配布資料を確認する。グループのテーマを準備する。
12.	「人間関係を築く」「情報を交換・共有する」、「相手に働きかける」をテーマに地域のコミュニティでワークショップⅢ	配布資料を確認する。グループのテーマを準備する。
13.	「人間関係を築く」「情報を交換・共有する」、「相手に働きかける」をテーマに地域のコミュニティでワークショップⅣ	配布資料を確認する。小論文を書く。
14.	経験したワークショップをグループでまとめ、グループディスカッションの後、プレゼンテーションの準備を行う。	配布資料を確認する。小論文を書く。
15.	経験したワークショップをグループでまとめ、グループディスカッションの後、プレゼンテーションの準備を行う。	配布資料を確認する。

教科書	教材文献については授業内で適宜指示する 授業に関してはレジュメプリントを配布する
参考書	参考文献については授業内で適宜指示する
学習成果の評価方法	授業参加・意欲20%、小レポート30%、ワークショップ、ディスカッション、プレゼンの意欲行動50%
特記すべき事項	ディスカッション、プレゼンテーションを積極的に行う。
質問・相談等の受付	メールで随時受け付ける。面談も可能。

科　目	情報学概説	開講時期	1年前期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態	講義
		単位数	2単位
授業概要	現代情報社会は、コンピュータなしでは成り立たない。コンピュータを使いこなすにあたって必要な基本的知識を、情報の入出力・処理・蓄積という観点と、情報の表現・コミュニケーションという観点から、仕組み、利用法、今後の可能性までを総合的に学習する。		
到達目標	コンピュータの基本的仕組み、処理の手順を理解した上で、電子メールやグループウェアを使ってのコミュニケーションが円滑にできるようになる。		
学習成果の評価基準	授業内で電子コミュニケーション課題を提出する。 コンピュータやインタネットに関する定期試験を行う。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	Office365の設定	教科書p7～20
2.	電子メールの基本	教科書p21～33
3.	電子メールのグループ利用	教科書p34～45
4.	電子メールでファイルを扱う	教科書p46～56
5.	インターネットの情報検索	教科書p57～71
6.	オンラインデータベースの利用	教科書p72～85
7.	公開情報・データの検索と活用	教科書p86～94
8.	電子会議1	教科書p95～105
9.	電子会議2	教科書p106～113
10.	グループでのファイル共有	教科書p114～122
11.	グループウェアの活用1	教科書p123～131
12.	グループウェアの活用2	教科書p132～137
13.	グループウェアの活用3	教科書p132～137
14.	グループウェアの活用4	教科書p146～150
15.	ネットワークコミュニケーションのこれから	教科書p151～155

教科書	『ゼロからはじめる情報リテラシー』高橋尚子　技術評論社
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度:10%　　授業内課題:30%　　期末試験：60%
特記すべき事項	情報処理士必修
質問・相談等の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

1-10

科　目	情報資源組織論	開講時期	1年前期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態	講義
		単位数	2単位
授業概要	多様かつ多量の情報資源のひとつひとつを、図書館の情報資源全体に一体化させ、利用者が探しやすく、図書館側も管理しやすいように位置づける情報資源組織法について、目録法と分類法を中心に学習する。		
到達目標	分類と目録を中心にして、図書館が所蔵する情報資源の組織法について理解する。		
学習成果の評価基準	授業内で確認小テストを行う。 情報資源組織全般についての定期試験		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	情報資源組織化の意義と理論	教科書p6～11
2.	書誌コントロールと標準化	教科書p12～17
3.	書誌記述法	教科書p18～23
4.	日本目録規則（1）	教科書p24～29
5.	日本目録規則（2）	教科書p30～37
6.	主題分析の意義と考え方	教科書p38～43
7.	主題分析と索引法	教科書p44～49
8.	基本件名標目表	教科書p50～55
9.	主題分析と分類法	主題分析と分類法
10.	日本十進分類法	教科書p62～69
11.	教科書p62～69	教科書p70～75
12.	教科書p70～75	教科書p70～75
13.	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ	教科書p82～87
14.	多様な情報源の組織化	教科書p88～93
15.	展望とまとめ	教科書p94～101

教科書	『情報資源組織論』榎本由希子ほか　学文社
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度:10%　　授業内小テスト:40%　　定期試験：50%
特記すべき事項	司書資格必修
質問・相談の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

科　目	図書館情報学概論	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	図書館の成り立ちからその存在意義、支える法体系や行政機関、類縁機関や関連業界との関わり等、広く情報提供機関、生涯学習機関としての図書館を概観する。また、日本の図書館の現状と問題点を考察し、これからの図書館を考える。		
到達目標	図書館を成り立たせている基本的な事を理解し、図書館が抱える問題点に向き合うことができる。		
学習成果の評価基準	授業内課題で単元ごとの理解度チェック 定期試験で、授業を踏まえて図書館についてどう考えるかを問う		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	図書館の現状と動向	教科書p6～11
2.	図書館の構成要素と機能および図書館サービス	教科書p12～17
3.	図書館の業務モデル	教科書p18～23
4.	図書館の社会的意義	教科書p24～31
5.	文化を伝承し保存する図書館	教科書p32～37
6.	公共図書館の成立と展開	教科書p38～43
7.	わが国における公共図書館の成立と発展	教科書p44～49
8.	わが国における公共図書館政策の展開	教科書p50～55
9.	図書館の種類と利用者（1）	教科書p56～61
10.	図書館の種類と利用者（2）	教科書p62～67
11.	図書館の類縁機関と図書館関連団体	教科書p68～73
12.	図書館とライブラリアンシップ	教科書p74～79
13.	知的自由と図書館	教科書p80～85
14.	図書館の課題	教科書p86～91
15.	展望とまとめ	教科書p92～99

教科書	『図書館の基礎と展望』二村健　学文社　　『図書館情報学基礎資料』今まど子　樹村房
参考書	
学習成果の評価方法	授業内課題：40%　　定期試験：60%
特記すべき事項	司書資格必修
質問・相談等の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

1-12

科　目	図書館サービス概論	開講時期	１年後期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態	講義
		単位数	2単位
授業概要	図書館サービスの意義と基本を学ぶ。これからの図書館が情報提供機関として社会的な役割を果たすためには、従来のサービスに加え新たな視点が求められている。図書館サービスに欠かせない「言葉」。言葉でのコミュニケーションの重要性を確認しこれからの図書館サービスの活性化に向けて総合的に学ぶ。		
到達目標	図書館が情報提供機関として社会的な役割を果たすサービスについての知識を修得できるようになる。人と人との言葉を通してのコミュニケーションの重要性が理解できるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、図書館における情報提供機関としてサービス、人とのコミュニケーションの重要性の理解を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	図書館サービスの意義と目的	図書館サービスについて考える
2.	図書館サービスの機能	図書館サービスの機能について考える
3.	パブリックサービスの実際（1）	貸出返却サービス、レファレンスサービスについて考える
4.	パブリックサービスの実際（2）	貸出返却サービス、レファレンスサービスについて考える
5.	テクニカルサービスの実際（1）	本の収集・装備・保存について考える
6.	テクニカルサービスの実際（2）	本の収集・装備・保存について考える
7.	公共図書館サービスの変遷	公共図書館の多様化するサービスについて考える
8.	図書館サービスの種類と方法	パブリックサービス、テクニカルサービスについて具体的に考える
9.	資料・情報提供サービス	利用者からの相談、情報拠点としての図書館、インターネットの活用について考える
10.	利用対象別サービス	利用目的に応じた支援について考える
11.	図書館サービスとコミュニケーション	利用者とのコミュニケーションについて考える
12.	図書館サービスと著作権	図書館サービスにおける著作権について考える
13.	図書館サービスの協力と連携	相互貸借と他機関との連携について考える
14.	図書館サービスの課題と展望	多様化する図書館サービスについて考える
15.	図書館サービスのサインシステム	図書館サービスのサインシステムについて考える

教科書	『図書館サービス概論』現代図書館情報学シリーズ４　高山正也編著　樹村房
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０%）小テスト（１０%）授業内課題（１０%）定期試験（７０%）
特記すべき事項	担当者は司書として１７年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	

1-13

科　目	情報サービス論	開講時期	1年前期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	下川和彦	授業形態	講義
		単位数	2単位

授業概要	図書館における情報サービスの意義と役割について学ぶ
到達目標	情報サービスの中核となるレファレンスサービスについて、レファレンスツールとしての参考図書やインターネット情報資源を知り、情報サービスの概要について理解する。
学習成果の評価基準	①毎回授業翌週に、前回授業内容確認のための「おさらいシート」で復習を行う。 ②随時課す課題を提出する。 ③定期試験において6割以上の解答ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション	
2.	図書館における情報サービス	教科書読み込み おさらいシート
3.	情報サービスの種類と展開	教科書読み込み おさらいシート
4.	レファレンスサービスの理論と実際（1）レファレンスの鉄則	教科書読み込み おさらいシート
5.	レファレンスサービスの理論と実際（2）インタビュー	教科書読み込み おさらいシート
6.	情報検索サービスの技法（1）データベース、論理演算子	教科書読み込み おさらいシート
7.	情報検索サービスの技法（2）トランケーション、制度と再現率	教科書読み込み おさらいシート
8.	レファレンスツールとその特性（1）レファレンスツールの種類	教科書読み込み おさらいシート
9.	レファレンスツールとその特性（2）参考図書	教科書読み込み おさらいシート
10.	レファレンスツールとその特性（3）ネットワーク情報資源	教科書読み込み おさらいシート
11.	レファレンスツールとその特性（4）ネットワーク情報資源	教科書読み込み おさらいシート
12.	発信型情報サービス	教科書読み込み おさらいシート
13.	情報サービスに関わる知的財産権	教科書読み込み おさらいシート
14.	情報リテラシー	教科書読み込み おさらいシート
15.	これからの情報サービス	全体復習

教科書	竹之内禎（編著）『情報サービス論』学文社　2016年
参考書	埜納タオ（著）『夜明けの図書館』（全7巻）双葉社　2011年から2021年
学習成果の評価方法	受講態度（10%）　課題提出（10%）　定期試験（80%）
特記すべき事項	定期試験は筆記試験。 担当者は司書として市立図書館で実務経験を有する。
質問・相談等の受付	授業終了後教室で

1-14

科　目	情報資源組織演習Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	日本目録規則を学び、日本目録規則に則った情報資源の書誌データ作成方法、アクセスポイントの付与方法を、演習形式で実際に目録を作成しながら修得する。		
到達目標	日本目録規則に従って、図書館が所蔵する情報資源の目録を作成できるようになる。		
学習成果の評価基準	単元ごとに小テストで理解度を確認。 定期試験では目録を完成させる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	目録の構成と日本目録規則	情報資源組織論の目録の部分を復習
2.	情報資源組織論の目録の部分を復習	配布プリント
3.	記述構成２（版、出版）	配布プリント
4.	記述構成３（形態、シリーズ）	配布プリント
5.	記述構成４（注記、標準番号）	配布プリント
6.	書誌データ作成演習	配布プリント
7.	標目（アクセスポイント）と典拠	配布プリント
8.	タイトル標目と標目指示	配布プリント
9.	タイトル標目と標目指示	配布プリント
10.	目録データ作成演習	配布プリント
11.	目録データ作成演習	配布プリント
12.	パソコンを用いた目録データ作成演習２	配布プリント
13.	国立国会図書館データの利用	配布プリント
14.	国立国会図書館データの利用	配布プリント
15.	ネットワーク情報資源の組織演習	配布プリント

教科書	
参考書	『情報資源組織論』榎本由希子ほか　学文社
学習成果の評価方法	受講態度:10%　　授業内小テスト:30%　　期末試験：60% 九州大谷Online等でフィードバック
特記すべき事項	司書資格必修
質問・相談等の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

科　目	学校図書館概論	開講時期	1年後期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態	講義
		単位数	2単位
授業概要	小中高等学校に設置されている学校図書館について、その理念と教育的意義、学校教育の中での役割、施設設備、働く人々とその職務、公立図書館をはじめとする他機関とのネットワーク、地域との関わり等、全般について学習し理解を深める。		
到達目標	学校図書館の教育的意義や学校司書の職務などの基本的事項について理解する。		
学習成果の評価基準	授業内課題で単元ごとの理解度を確認。 定期試験で学校図書館に関する総合的な理解を問う。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	図書館とは	教科書p1～9
2.	学校図書館の理念	教科書p10～16
3.	学校図書館の教育的意義	教科書p17～20
4.	学校図書館法	教科書p21～28
5.	学校図書館関連の法律と教育行政	教科書p29～42
6.	学校経営と学校図書館	教科書p43～63
7.	司書教諭と学校司書（1）	教科書p64～68
8.	司書教諭と学校司書（2）	教科書p69～78
9.	学校司書と教育	教科書p79～89
10.	学校図書館メディア	教科書p90～102
11.	学校図書館メディアの選択と管理	教科書p103～108
12.	学校図書館の施設・設備	教科書p109～116
13.	学校図書館サービス（1）	教科書p117～122
14.	学校図書館サービス（2）	教科書p123～128
15.	図書館協力、学校図書館への支援	教科書p129～133

教科書	『学校図書館の基礎と実際』　後藤敏行　樹村房
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度：10%　　授業内課題：30%　　定期試験60% 試験結果はフィードバック
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	図書館で随時受付 電子メールでも　sakagawa@kyushuotani.online

1-16

科　目	学校教育論	開講時期	1年後期
		履修方法	選択、専門科目
担当者	原　章	授業形態	講義
		単位数	2単位

授業概要	学校教育における学校図書館の意義と基本を学び、これからの学校図書館が果たす役割を知ることで、学校司書が学校教育に関与する重要な位置づけにあることを理解する。学校司書が児童生徒の学習及び心の成長を助けることができることを総合的に学習する。学校司書のコミュニケーション能力を高めるために、毎回グループ学習及びショートスピーチを実施する。
到達目標	①学校図書館の法制上、学習指導要領上の位置づけを理解する。 ②学校図書館が担う学習支援のあり方や心の教育への援助の仕方を理解する。 ③学校図書館運営のあり方を理解する。 ④コミュニケーション能力を身に付ける。
学習成果の評価基準	①③学校図書館の法的位置づけを自らの考えをグループ内、クラス全体で交流することより確かなものにする。 ②学校司書も学校の職員であることを交流することで確かなものとする。 ④ｼｮｰﾄｽﾋﾟｰﾁとＮＥＷＳの発表およびグループ内での話し合いを通じてｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の高まりを確かなものにする。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	本講座のガイダンス 教育を受ける権利と受けさせる義務	履修の理由
2.	教育の目的 教育の目標①	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
3.	教育の目標② 教育の機会均等	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
4.	学校図書館目的・設置義務 学校図書館の設備及び環境	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
5.	学校図書館の定義 学校図書館の運営	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
6.	地公法（服務の近本基準） 地公法（法令及び上司の職務上の命令に従う義務）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
7.	地公法（信用失墜行為の禁止） 地公法（秘密を守る義務）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
8.	地公法（職務に専念する義務） 地公法（政治的行為の制限）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
9.	地公法（争議行為の禁止） 地公法（営利企業等の従事制限）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
10.	プレテスト これまでの学習のまとめ	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
11.	中学校学習指導要領（学校図書館、地域の公共施設の活用）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
12.	中学校学習指導要領（生徒指導の充実）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
13.	中学校学習指導要領（キャリア教育の充実）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
14.	中学校学習指導要領（障害のある生徒などへの指導）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS
15.	中学校学習指導要領（不登校生徒への配慮）	①ショートｽﾋﾟｰﾁ ②気になるNEWS

教科書	学習プリント1～15
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（20%）　小テスト（20%）　授業内課題（10%）　定期試験（40%）　授業内発表（10%）
特記すべき事項	中学校の国語科教師としてのキャリアと公共図書館長としての実務経験を講義のなかで示していく。
質問・相談等の受付	

科　目	プレゼンテーション	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	小西廣満	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	課題に対する表現能力を豊かにするために必要な基本事項と、情報を相手に正確に分かり易く伝え、理解と行動を促すプレゼンテーションのノウハウを身に付けることを学ぶ。		
到達目標	自己PRなどのプレゼンテーション能力の向上によって、課題解決能力の修得ができるようになる。		
学習成果の評価基準	授業での積極的なグループ活動（プレゼンテーションや資料作成）を「受講態度」の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	プレゼンテーションとは何か（1）	プリントに目を通す プレゼンテーションの意義を理解する
2.	プレゼンテーションとは何か（2）	プリントに目を通す コミュニケーションとプレゼンテーションの必要性を理解する
3.	プレゼンテーションの企画と構成 （私が司書になったら）（1）	場面の想定 状況分析ができる①テーマとコンセプト②聞き手の分析③制約条件
4.	プレゼンテーションの企画と構成 （私が司書になったら）（2）	プリントに目を通す ブレーン・ストーミングと三部構成法を知る
5.	プレゼンテーションの表現方法 （私が司書になったら）（1）	身体を動かす 表現の原則、ジェスチャーとアイコンタクトを実習する
6.	プレゼンテーションの表現方法 （私が司書になったら）（2）	身体を動かす ボーカルテクニック、複式呼吸法を実習する
7.	プレゼンテーションの演出法（1）	プリントとツールの準備 プレゼンテーション・ツールを使用する
8.	プレゼンテーションの演出法（2）	プリントの準備 ビジュアル効果、図表とグラフの活用を知る
9.	デジタル・プレゼンテーション	プリントの準備 パワーポイントの活用法を知る
10.	プレゼンテーションをやってみよう（自己紹介）（1）	構成シート・進行表の作成 プレゼンの準備をする
11.	プレゼンテーションをやってみよう（自己紹介）（2）	構成シート・進行表の作成 各自、プレゼンをする
12.	プレゼンテーションをやってみよう（自己紹介）（3）	構成シート・進行表の作成 各自、プレゼンをする。プレゼンテーション・タブーを知る
13.	面接におけるプレゼンテーション（1）	面接表の作成・ビデオで面接場面を学習 面接がプレゼンテーションである
14.	面接におけるプレゼンテーション（2）	面接表の作成・追加修正　自己PRができる
15.	面接におけるプレゼンテーション（3）	面接表の作成・追加修正　より効果的な面接ができる

教科書	プレゼンテーション（一ツ橋出版）
参考書	ビジネスマナー術（日本建材新聞社）　日本経済新聞
学習成果の評価方法	授業態度（10%）　定期試験（７０%）　授業内発表（２０%） 次回授業でフィードバックを行う。
特記すべき事項	担当者は大学編入を目的とした学校で、経営学の授業経験を有している。
質問・相談等の受付	授業期間中、授業時間外にいつでも受け付けます。

科　目	基礎演習Ⅰ	開講時期	1年前期
		履修方法	必修、専門科目
担当者	坂川和彦・梅野智美	授業形態	演習
		単位数	1単位
授業概要	大学の授業（講義・演習）を受講し、単位を取得するために必要なスキルを学習する。聴く、読む、書く、調べる、整理する、まとめる、表現する、伝える、考える力を身につけ、レポートを作成できるようになることを目標とする。また、保育園で読み聞かせの実践を行う。		
到達目標	情報を収集し、整理し、読み、分析し、パソコンを使ってレポートを書けるようになる。 保育園児の前で読み聞かせができるようになる。		
学習成果の評価基準	授業の中で、単元に応じた課題や、読み聞かせ練習を課す。 まとめのレポートを提出する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	スタディスキルとは	
2.	ノートの取り方	配布プリント
3.	テキストの読み方	配布プリント
4.	書くための読み方	配布プリント
5.	読み聞かせ図書の選定と練習	図書館での絵本探し
6.	読み聞かせ会の予行演習	読み聞かせの練習
7.	保育所での読み聞かせ会	読み聞かせの練習
8.	情報収集	配布プリント
9.	収集した情報の整理	配布プリント
10.	レポートの作成手順	配布プリント
11.	わかりやすい文章の書き方	配布プリント
12.	パソコンを使ったレポートのまとめ方	配布プリント
13.	卒業研究中間発表会に参加	レジュメ熟読
14.	わかりやすいプレゼンテーション	配布プリント
15.	まとめ	配布プリント

教科書	
参考書	
学習成果の評価方法	授業内課題：６０％　　レポート：40%
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-9

科　目	基礎演習Ⅱ	開講時期	１年後期
		履修方法	必修、専門科目
担当者	坂川和彦・梅野智美	授業形態	演習
		単位数	1単位
授業概要	基礎演習Ⅰを受け、２年次の卒業研究につなげるべく、資料を講読し、まとめ、発表し、質問・議論等を行う。進路の分析、指導も併せて行う。また、ビブリオバトル発表に向けて、指導、練習を行う。		
到達目標	レジュメをまとめ発表ができるようになる、また発表者に質問ができるようになる。 ビブリオバトルで発表ができるようになる。 就職活動に備えて準備をする。		
学習成果の評価基準	授業内で分担に従いレジュメを作成し発表する 春期休暇に向けて計画レポートを作成する ビブリオバトルの準備と発表を行う		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	就活ナビサイトの活用	
2.	自己分析の方法・履歴書の書き方	自らを振り返り、仮履歴書を作成
3.	ビブリオバトル用図書の選定と練習	図書館での本探し
4.	ビブリオバトルの予行演習	ビブリオバトルの練習
5.	ビブリオバトルの実施	ビブリオバトルの練習
6.	講読テキストの選定とレジュメのまとめ方	テキストの概要把握
7.	ゼミ内発表　発表１	テキストの精読 発表準備
8.	ゼミ内発表　発表２	テキストの精読 発表準備
9.	ゼミ内発表　発表３	テキストの精読 発表準備
10.	ゼミ内発表　発表４	テキストの精読 発表準備
11.	ゼミ内発表　発表５	テキストの精読 発表準備
12.	卒業研究発表会への参加	レジュメの熟読
13.	卒業研究発表会を振り返る	発表会レジュメの復習
14.	自己分析・履歴書の確認	自己分析・履歴書を仕上げる
15.	就職セミナー参加に向けて	春期休暇計画

教科書	
参考書	
学習成果の評価方法	授業内課題：２５％　　授業内発表：５０％　　レポート：２５％
特記すべき事　項	
質問・相談等の受付	